



付きたい力を意識することで成長の積み上げを！

学年	調査項目(旧)	令和 元年度	学年	調査項目(新)	令和 2年度	令和 3年度
1年	伏し浮き	80.1%	1年	伏し浮き	78.0%	71.4%
				バブリング	86.5%	80.9%
2年			2年	伏し浮き	86.4%	84.4%
				ポビング	88.5%	86.4%
	け伸びからのぼた足5m	74.5%		け伸び	75.9%	78.7%
3年			3年	け伸び	84.0%	83.8%
	面クロール 10m	61.1%		面かぶりクロール 7m	72.2%	65.9%
	かえる足	44.0%		かえる足	34.4%	31.6%
4年	クロール25m	51.4%	4年	け伸びクロール 15m	66.9%	59.0%
	平泳ぎ25m	35.1%		け伸び平泳ぎ 10m	44.1%	41.0%
5年	クロール25m	72.4%	5年	クロール 25m	68.0%	63.0%
	平泳ぎ25m	52.8%		平泳ぎ 25m	49.4%	46.4%
				背浮き 10秒	87.7%	79.4%
				5分間回泳	55.0%	46.7%
6年			6年	クロール 25m	80.4%	74.7%
	クロール50m	80.5%		クロール 50m	57.2%	49.6%
				平泳ぎ 25m	63.6%	59.3%
	平泳ぎ50m	68.6%		平泳ぎ 50m	53.8%	46.0%
	背泳ぎ25m	70.0%		背浮き 20秒	80.5%	76.0%
				10分間回泳	66.1%	52.9%
	30分間回泳	71.3%		30分間回泳	61.1%	50.4%

＜調査結果と考察＞

今年度も感染症対策等の対応が行われる中、泳力調査への御協力ありがとうございました。練習や授業が十分に確保できなかった、という声も聞かれましたが、同一集団に着目して分析すると、付きたい力が確実に伸びていることがわかります。「もぐる・浮く運動遊び」(低)や「浮いて進む運動」(中)、「安全確保につながる運動」(高)など、発達段階に合わせ、付きたい力を意識し、ポイントを押さえた指導を行うことの大切さを感じます。

また、回泳の調査は、**命を守る指導**とつながっていきます。1時間の授業の中で、どのように授業を組み立てていくと効果的かを考えていくことが必要です。具体的な手立てについては裏面にも参考となる資料を紹介しますので、ぜひご覧ください。

＜泳力向上につながった各校の指導法紹介＞ (令和3年度の実践より)

- ・児童の泳力に合わせてコースを分けた。学年合同体育、レベル別で分け、教員の目を増やした。保護者ボランティアに参加していただいた。(回答複数校)
- ・毎時間、各項目練習時間を確保した。(竜洋東小)
- ・水泳級という6学年持ち上りの個人カードを作成しており、自分の泳力の積み重ねが分かる。目標も立てやすく、効果的であった。(今井小)
- ・①もぐる②浮く③泳ぐの3ステップを意識して指導した。(山名小)

効果的な指導法～単元構想編～

子どもたちに「付きたい力」を確実に指導するためには、**教師の見通し(単元構想)**が不可欠です。短い時間で繰り返してできる練習を毎時間取り入れることで、積み重ねができます。子供たちの泳力向上のために、次年度の指導に生かしていただきたいです。



- ・平泳ぎのかえる足の指導時間の確保が難しかった。
- ・限られた時数の中で、クロールとかえる足を指導するのは難しいと感じた。
(泳力調査 ご意見等より)

○3年生単元計画例(10時間目安)

時数	学習内容
導入①	・オリエンテーション(水泳授業のルール確認・安全指導) ・水慣れ(バブリング・ボビング・け伸び・ばた足) ・『かえる足ドリル』習得・・・Athlete126(かえる足のスモールステップ)参照
展開前半②～⑤	・水慣れ(バブリング・ボビング・け伸び・ばた足) ・『かえる足ドリル』(5分間) ・面かぶりクロール練習・・・ビート板 ⇒ ビート板なし
展開後半⑥～⑨	・水慣れ(バブリング・ボビング・け伸び・ばた足・面かぶりクロール) ・『かえる足ドリル』(5分間) ・かえる足練習・・・ビート板を使って できる子・・・手のかき練習・コンビネーション練習・ミニ先生
終末⑩	・水慣れ(バブリング・ボビング・け伸び・ばた足・面かぶりクロール) ・かえる足仕上げ(テスト)

- ・毎時間5分程度で『かえる足ドリル』の時間を設定し、反復練習する。
- ・クロールの指導時間と平泳ぎの指導時間に見通しを持つ。(子供に学習計画を提示)
- ・調査項目達成者には、『ミニ先生』として教え役になる。

○6年生単元(背浮き・回泳指導)において・・・

- ・毎時間、背浮き10秒(20秒)を練習することで、浮くことに慣れさせ、回泳につながった。
- ・授業を行うごとに、20秒、1分、5分、10分・・・と、段階を踏んで取り組んだ。

○その他の指導例

- ・ICT機器の活用により、動きのポイントや自分の泳ぎ方(動き)を確認する。
- ・学習指導要領内『運動が苦手な児童への配慮の例』を参考にする。
- ・教室や体育館で映像を見たり、手足の動かし方を練習したりする。